

氏名： 中村 真由美 (NAKAMURA MAYUMI)  
所属： 教育研究特設センター コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応  
職名： 助教  
学位： Ph.D.  
専門分野： 社会調査法、ジェンダーと階層、文化社会学  
E-mail： nakamura.mayumi@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

社会調査法/ジェンダー/専門職の社会学/ワークライフバランス/社会階層論  
Social research methods / gender / Sociology of Profession / Work-life balance / social stratification

#### ◆主要業績

- ・『医療・法曹職女性の研究—職場と家庭における性別役割分業と階層—平成 18～20 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究成果報告書』(編著) (2009.3)
- ・『2008 年度 社会調査法 実習レポート集』お茶の水女子大学 (杉野勇氏と共編) (2009.3)
- ・「法律家のキャリア形成と家庭役割の男女差について」東北大学法学研究科グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画社会と多文化共生」講演会 (2008.11)
- ・「男性に求められる資質の変化—対人関係能力と結婚の可能性」柏木恵子・高橋恵子編『日本の男性の心理学』有斐閣 (2008.6)
- ・「法律家の仕事と家庭のバランスに関する調査—ご協力のお礼とご報告」日本女性法律家協会 会報 46 号 (2008.6)

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

- (1) 医師と弁護士男女のワークライフバランスとキャリア形成の研究をしています。制度の違いが、ワークライフバランスに与える影響について、質的・量的データの双方を用い、分析しています。平成 18-20 年度 科研費研究 (『医療・法曹職女性の研究』)・平成 21-13 年度 科研費研究 (『男女医師のワークライフバランスとキャリア形成の研究』)、研究代表者です。
- (2) 恋愛・結婚研究。  
対人関係能力やその他の要因が恋愛や結婚の成立に与える影響について研究しています。
- (3) 「思春期やせ」の要因について、国立精神・神経センターの精神科医の研究グループ(厚生科学研究)に参加し、社会学的な要因から明らかにしようとしています。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

社会調査士資格・専門社会調査士資格関連の授業を担当しています。

学部では、

- ・人間科学論（社会調査士 A 科目）
  - ・社会調査の設計と実施（社会調査士 B 科目）
  - ・社会調査法（社会調査士 G 科目）
- を担当しています。

大学院では、

- ・多変量解析演習（専門社会調査士科目 I 科目）
- を担当しています。

## ◆研究計画

以下の研究を進めていく。

- (1) 専門職研究（医師と法曹の男女のワークライフバランスとキャリア形成の比較研究）。今年度からの新たな科研費プロジェクトでは、男女医師を対象とした、数千人規模の質問紙調査を実施する予定である。最終的には、以前の科研費研究で得られた法曹の質問紙調査のデータとあわせ、医師と法曹の計量比較分析を行う。
- (2) 対人関係能力と恋愛・結婚の研究。二次分析データの再分析を通じた、恋愛・結婚研究も、続けていく予定である。
- (3) 思春期やせの研究。国立精神・神経センターの医師の研究グループに参加し、思春期やせの原因について、量的・質的調査を併用した大規模調査を行い、社会的な要因に焦点をあて、明らかにしていく。

## ◆メッセージ

社会調査法（社会現象をどのように調査するのかについての方法論）関連の授業を担当しています。社会調査法関連の科目を7つとると、「社会調査士資格」という資格を取得することができます。資格に興味がある方、ぜひどうぞ。

社会調査法関連の授業では、社会を科学的に見る「見方」を身につけてもらい、また、調査・分析・発表のやり方や、データの見極め方を学んでもらいますので、将来、社会人になった際にもプレゼン等でも、役に立ててもらえると思います。

社会調査法関連授業の内容としては、例えば、アンケート調査やインタビューなどを、どのように企画・実施するのか・・・というような具体的なノウハウを教えています。

授業によっては実際に学生さんに実際にアンケート作りや、インタビュー等を体験してもらうものもあります。また、パソコンの統計ソフトを使って、アンケート結果を統計的に分析する手法を学んでもらう授業も行っています。